

ふらのコミュニティレポート

FURANO COMMUNITY REPORT



▲ホテルの料理を楽しみながら、町内外の人と交流する合同サロン参加者

asahimachi and asamachi 朝日町連合会・麻町連合会

地域の枠を越えた交流、一つではできないことも二つなら。



10月17日、朝日町連合会（古田秀夫会長、会員25人）と麻町連合会（山田明会長、会員76人）が市内で初めての合同ふれあいサロンを開催しました。両連合町内会の参加者88人は、市内ホテルのバイキングランチを堪能しながら、町内を越えた交流を楽しんでいました。

合同で行うことで、いつもできないことが企画できるのではないかと、また、ほかの町内会の人たちと交流することで参加者の刺激になるのではないかと麻町連合会から朝日町連合会に話が持ちかけられました。朝日町のふれあいサロンの活動は、月に一度、「ハイランドふらの」の温泉に入ること。朝日町連合会の古田会長は、「町内の高齢化は著しく、サロンをサポートしてくれるボランティアは3人ほど少ない人員でやれることをやっています。今回は、合同となり、いつもと違う形でできてありがたいです。知らない人同士で緊張はありますが、それが刺激になって良いんです」と参加者の中には抵抗もあったそうですが、

実施を決めました。

ふれあいサロンをサポートする社会福祉協議会の阿部ひとみさんは、ふれあいサロンの今後の課題について、「まだまだ出てこない人たちがたくさんいます。これまでは、一人暮らしの高齢者ばかりに目を向け、高齢者夫婦を見落としていました。そうした方々を取り込み、活動を広げていかなければ」と話します。

高齢化が進む中では、町内会など小さな単位のコミュニティのきめ細かな取り組みが必要である一方、高齢化の地域間格差も大きくなってきており、合同サロンのように地域の枠を越えた取り組みも重要な課題となってきました。

